

1～4年次前期・選択

1単位・30時間

【概要・目的】

古代ギリシャ以来、音楽と看護学・医学は意外に深い関係にあり、将来看護職関係の仕事に従事する方々にとって、音楽のことを知っておくことはきっと役に立つと思います。卒業後様々な世代の患者さんと、音楽の話題を通じて心の交流ができるようになることを目指して、特に音楽と看護学に関する様々な話題を提供していきます。

【到達目標】

様々な世代、様々な国々の患者さんと、音楽の話題を通じて心の交流ができるようになること。

【内容・スケジュール】

- 1) 音楽療法の可能性1：音楽運動療法
 - 2) 音楽療法の可能性2：癒しと音楽～大脳辺縁系に与える音楽の作用
 - 3) 音楽療法の可能性3：緩和ケア病棟と音楽
 - 4) 音楽療法の可能性4：ホスピスの歴史と現状
 - 5) 聴覚と音楽1：増加している若年世代の難聴
 - 6) 聴覚と音楽2：日本人の耳、欧米人の耳
 - 7) 喉頭と音楽：様々な発声法と生活環境の関連
 - 8) 運動と音楽：様々なリズム感と生活様式の関連
 - 9) 西洋音楽史を1年に縮めたら：あなたも90分でクラシック音楽がわかる
 - 10) 声楽入門：西洋音楽史における様々な美しい声楽曲を訪ねて
 - 11) 器楽入門：ロマン派・印象派のピアノ名曲の流れを訪ねて
 - 12) ピアノの歴史
 - 13) J-Popに見る日本人の音楽的感性
 - 14) 明治以降の音楽：各世代の患者さんはどのような音楽を聴いてきたか
 - 15) まとめ
-

【評価】

毎回の講義へのミニ・レポート（60%）、出席状況及び参加態度（40%）。ミニ・レポートは講義を通じて得られたこと、講義内容への感想、質問などを記入してください。講義の中で紹介する参考文献はきっと将来の仕事に役立つと思いますので、できるだけ目を通すようにしてください。

【教科書】

適宜資料を配布する

【推薦参考図書】

田村和紀夫『徹底図解 クラシック音楽の世界』新星出版社、2012

【その他】 E-mail kbrunnenk@gmail.com